



Tohoku University

Global30 Project Follow-up FY 2012

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業2012年度フォローアップ

構想責任者 花輪 公雄

役職 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)

所属機関 東北大学

目次

1. 本事業の成果

- ① 特筆すべき成果と波及効果
- ② 留学生(英語コース留学生を含む。)からの評価等
- ③ 留学生の受入
- ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施
- ⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大
- ⑥ 教育体制の充実

2. 取組状況

- ① 英語による授業のみで学位が取得できるコース
- ② 留学生受入のための環境整備
- ③ 拠点大学の国際化とネットワークの形成

3. 経費の使用状況

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

1. 本事業の成果

①特筆すべき成果と波及効果

○全学的な教育国際化推進方針の確立

- ・ 中期目標・計画において大学の国際化を最重点項目の一つに設定
- ・ 国際交流戦略会議、G30運営会議による全学的な国際化推進体制の確立
- ・ G30を体系的な国際戦略の中に位置付け

○ネットワーク形成の強化

- ・ 北日本エリアネットワーク(東北地区47大学)の確立、学都仙台コンソーシアム(宮城県17大学)の活用
- ・ 国際シンポジウムを積極的に開催し、情報をグローバル30採択校、北日本エリアネットワークを通じて配信

○交流協定締結校の拡大と学生交流の活発化

- ・ G30採択後、大学間協定40校、部局間協定46校計86校の増加。COLABS(大学院理系短プロ)、IPLA(学部文系短プロ)、スタディーアブロードプログラム(カリフォルニア大、シドニー大派遣)等により学生交流が活発化
- ・ トップ・ダウンによる大学間協定の締結の導入(上海交通大学・ハワイ大学等)

○大学院における英語授業共修の定着と学士コースの英語授業への日本人学生のチャレンジ

- ・ 大学院9研究科13コースの開設による英語授業共修の定着及び学士コースの英語授業への日本人学生のチャレンジ(履修登録)増により、日本人学生と留学生の相互啓発が進展

○海外紹介機会の拡大

- ・ 海外での東北大学デイ開催(2ヵ国7回)、留学フェア参加(延べ36ヵ国57ヵ所)、高校訪問(延べ39ヵ国124校)により、世界における東北大学の教育・研究の認知度が確実にアップ

②留学生（英語コース留学生を含む。）からの評価等

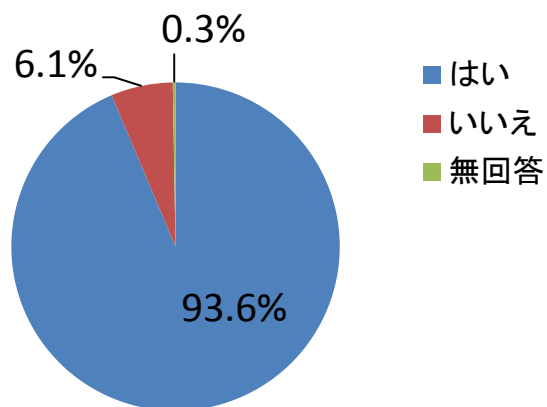
- 教育国際化の推進に資するため、また、地震等の震災時における学生支援の在り方を強化するため、在学する全ての留学生を対象に、「留学の動機等」「学習・研究環境」「学生生活」「キャリアプラン」「東日本大震災の留学への影響」についてアンケート調査を実施

調査概要

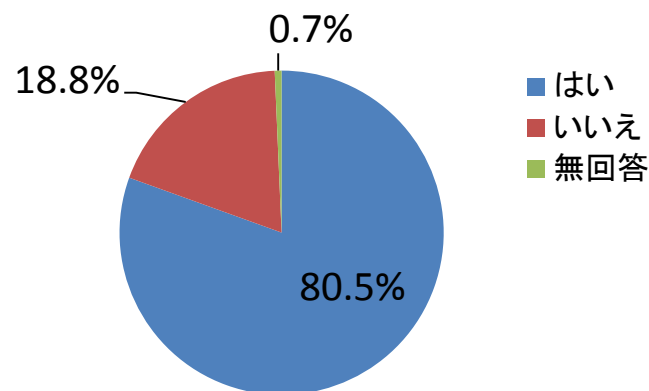
調査実施期間： 2012年6月25日（月）～7月13日（金）
対象者： 2012年5月1日時点で東北大学に在籍する留学生 1,431名
回収数： 739 回収率： 51.6%

留学生からの評価（その1. 留学の動機）

日本は留学したい国として第一希望でしたか？

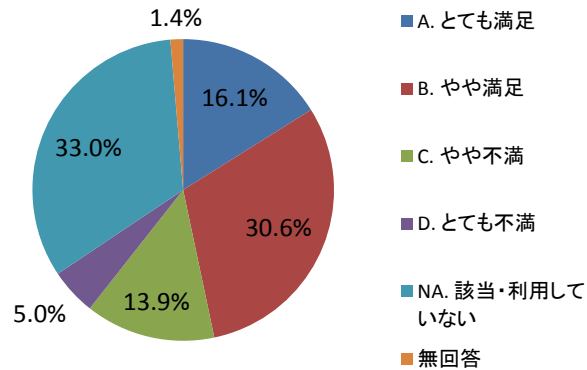


東北大学は日本の中で留学したい大学として第一希望でしたか？

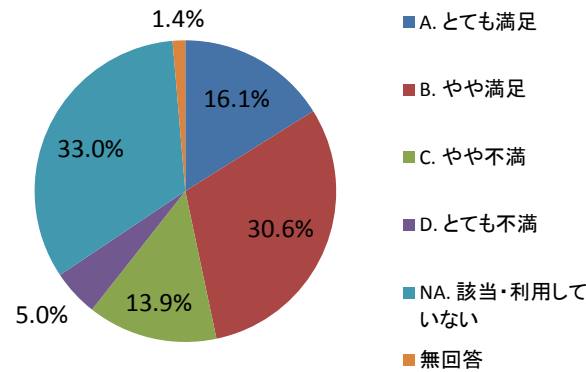


留学生からの評価（その2. 学習・研究環境）

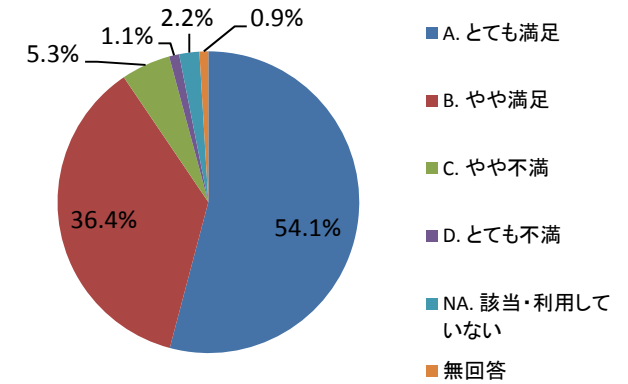
英語で開講されている専門教育



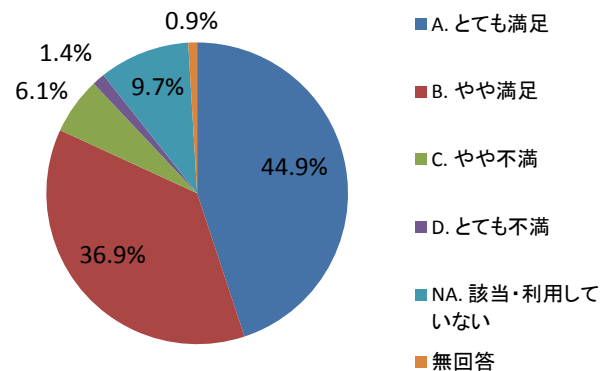
チューターの支援



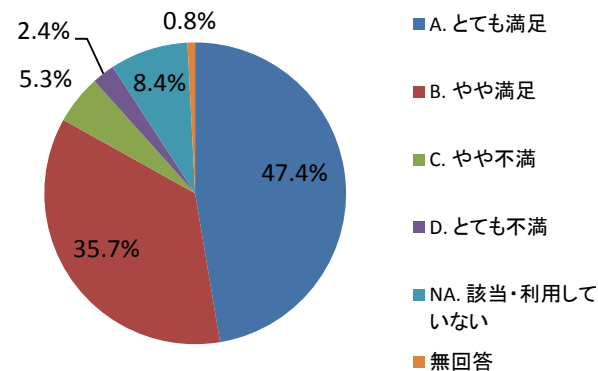
教務係など事務窓口の対応



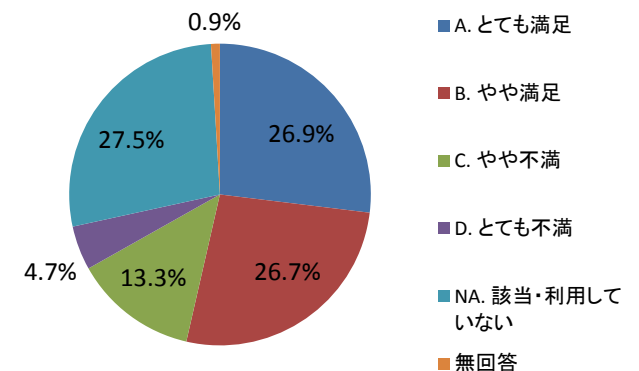
授業担当教員の指導



研究室の環境や設備

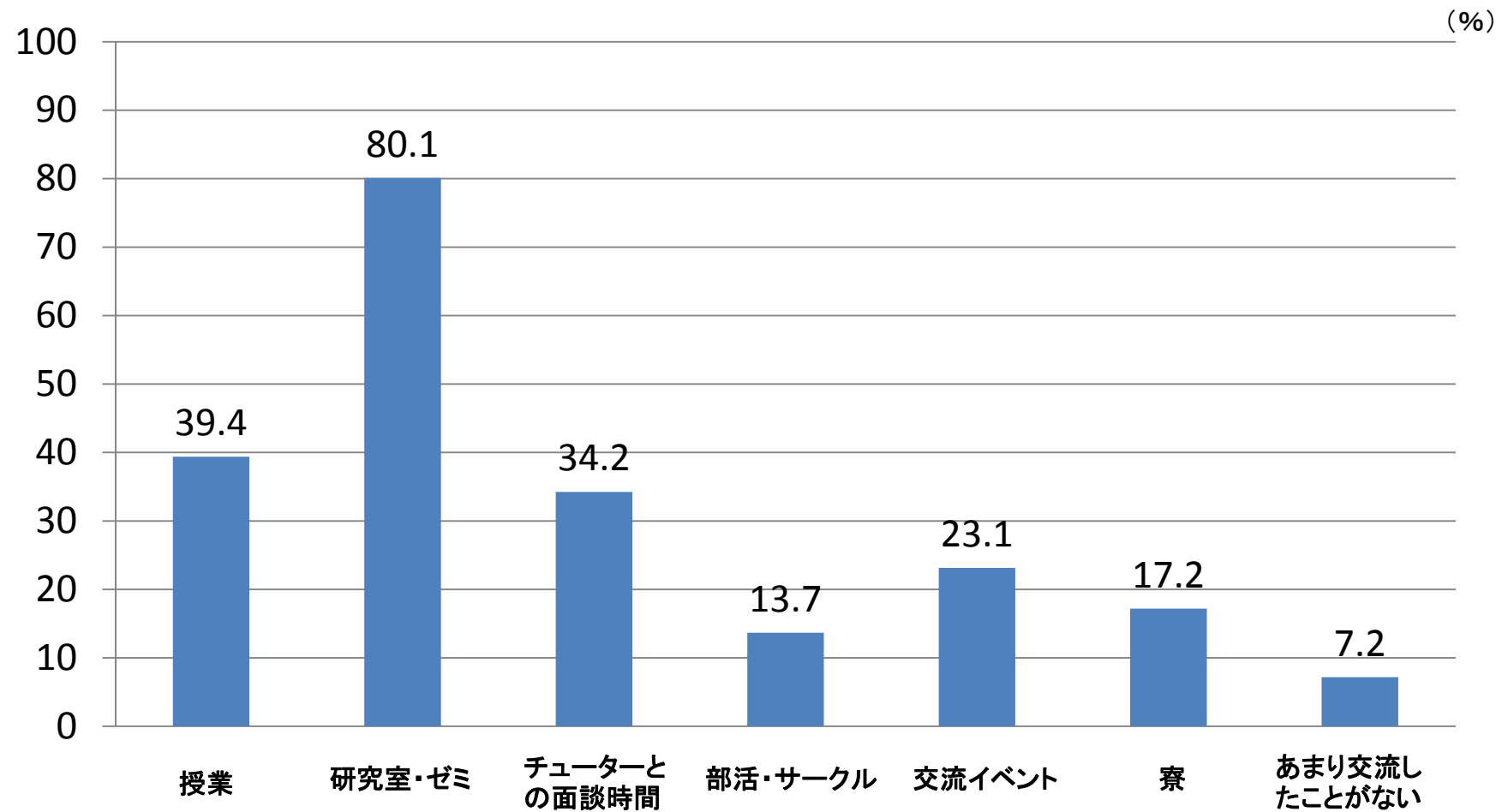


大学寮(国際交流会館、UHSなど)

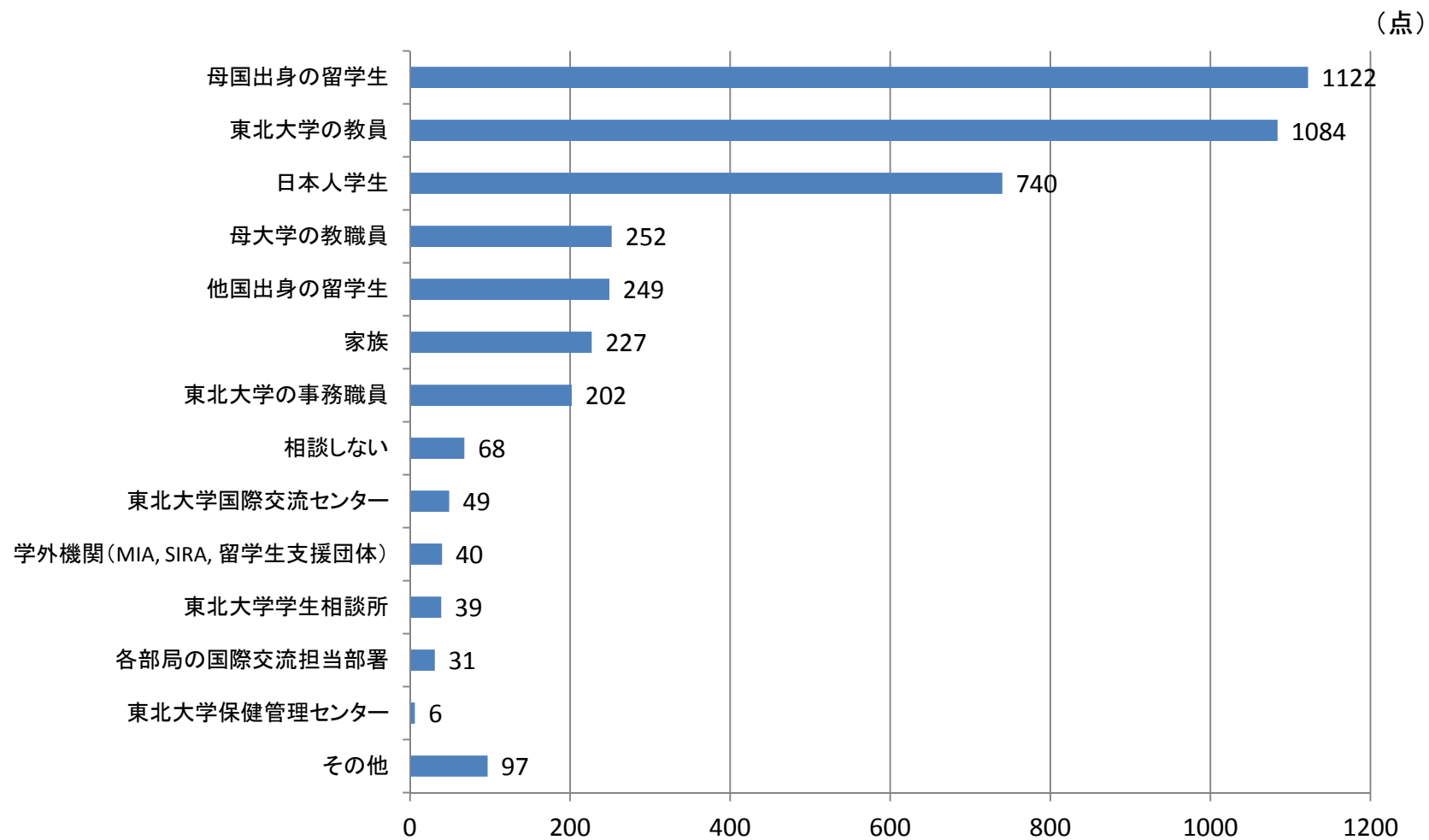


留学生からの評価（その3. 学生生活）

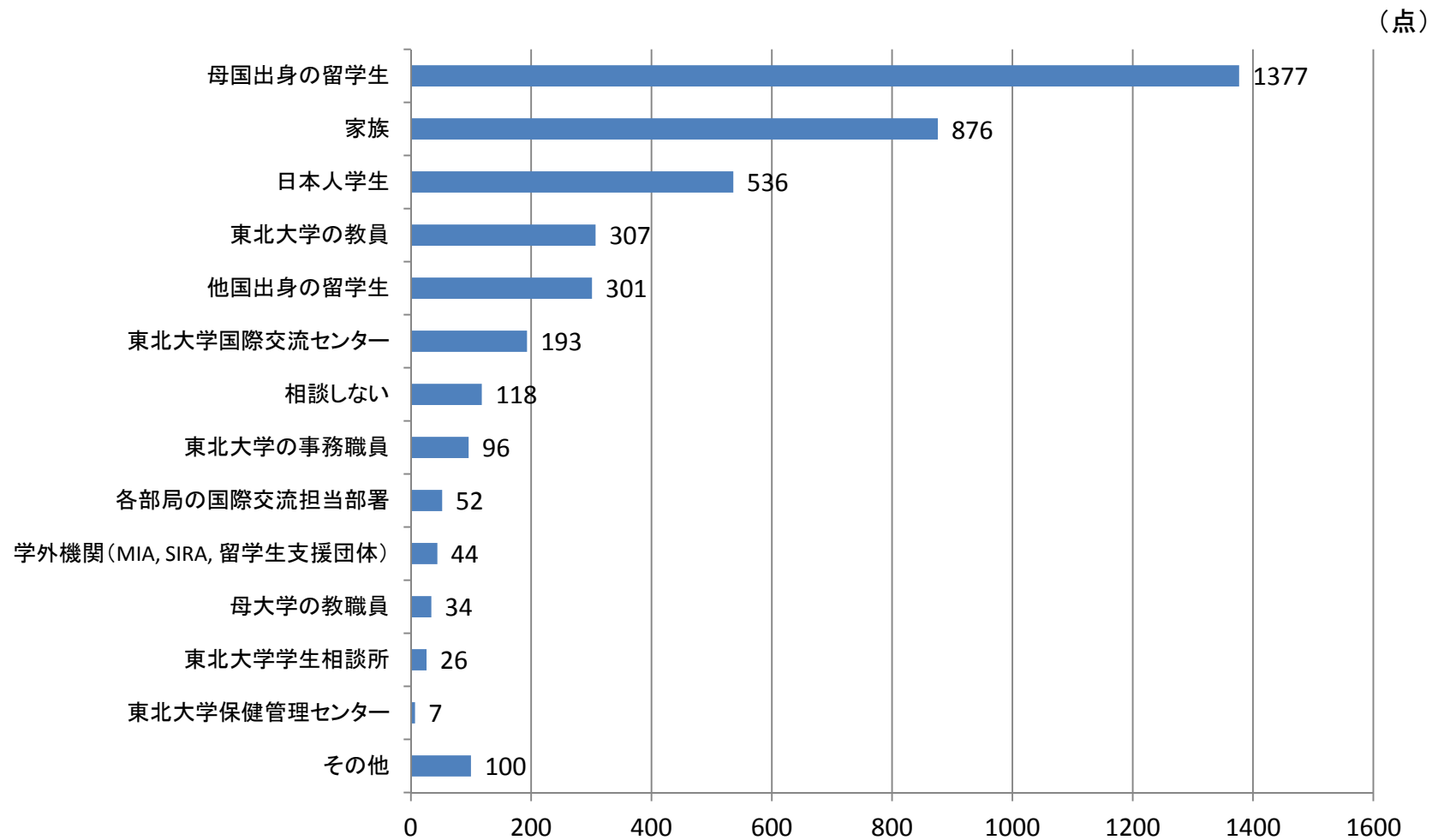
あなたは、これまで東北大学の中で、どのような時に日本人学生と交流しましたか？（複数回答可）



あなたは、学業や生活などの問題で悩みや心配事が生じたら、どのような相手に相談しますか。以下の選択肢より3つ選び、1位から3位まで順位を付けてください。(学業について)

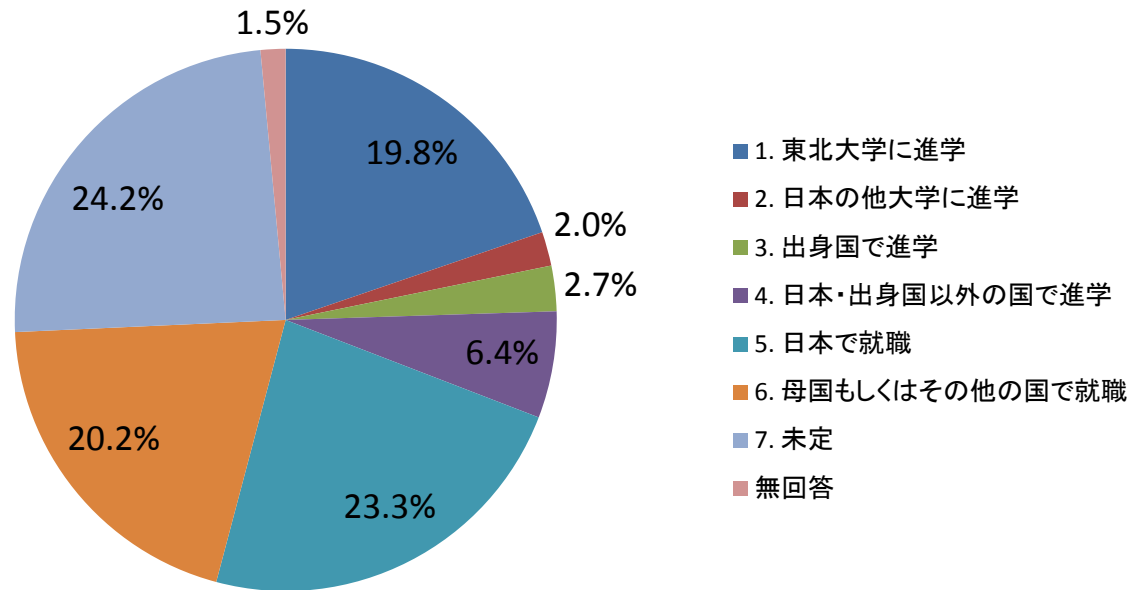


あなたは、学業や生活などの問題で悩みや心配事が生じたら、どのような相手に相談しますか。以下の選択肢より3つ選び、1位から3位まで順位を付けてください。(生活について)



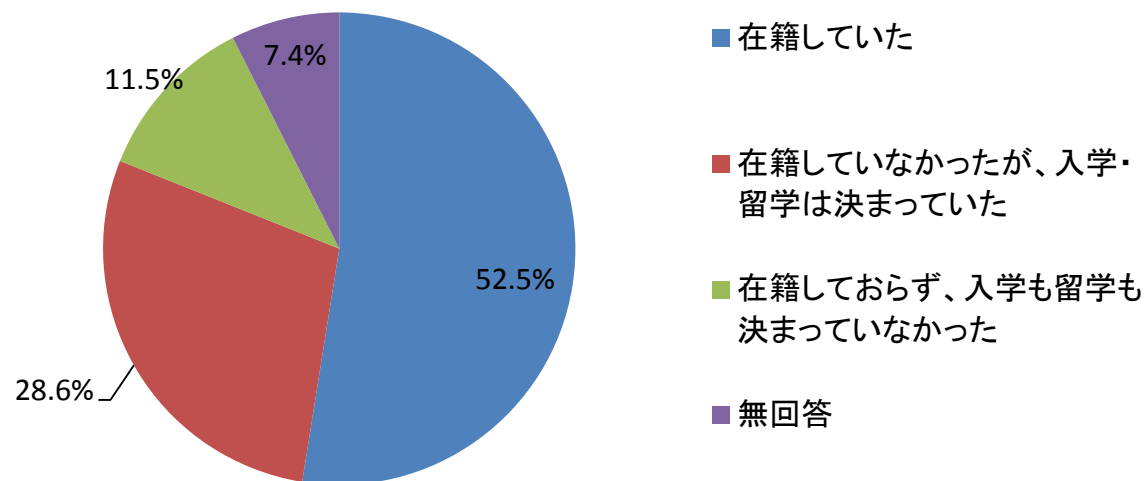
留学生からの評価（その4. キャリアプラン）

現在、在籍している課程（交換留学生は母国での課程）を卒業・修了した後の進路についてお聞きします。以下のうち、最も可能性の高いものを選び、その理由を書いてください。



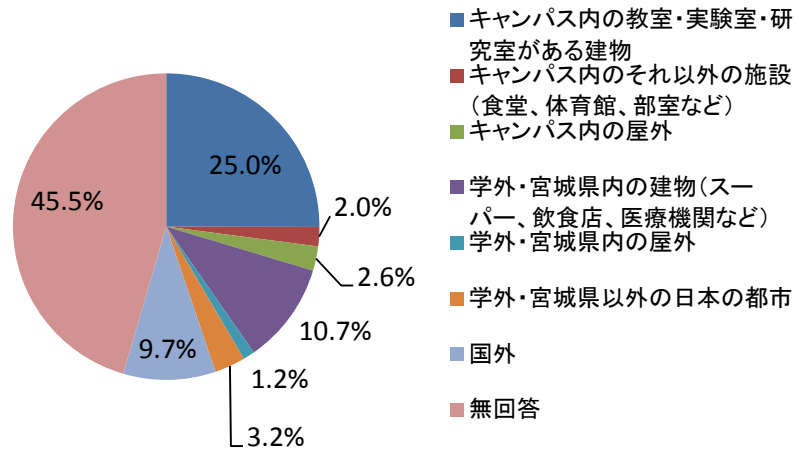
留学生からの評価（その5. 東日本大震災の留学への影響）

あなたは東日本大震災の時、東北大学に在籍していましたか？

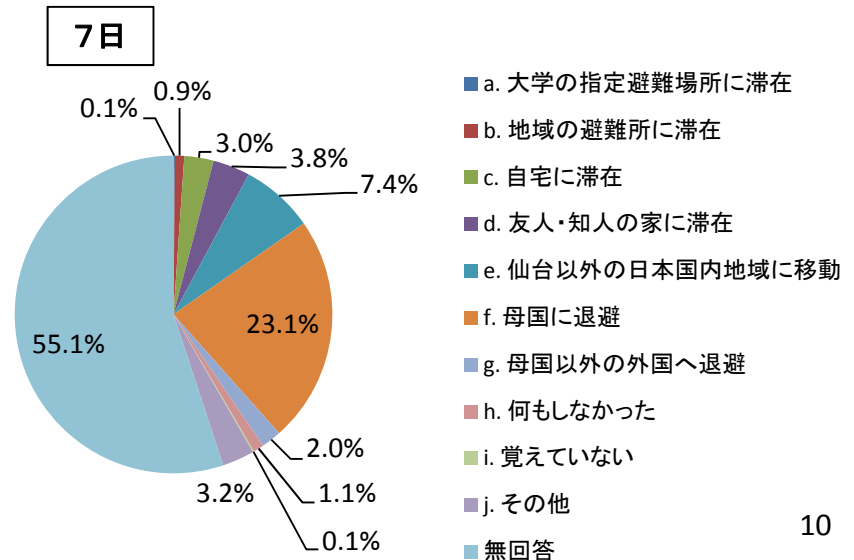
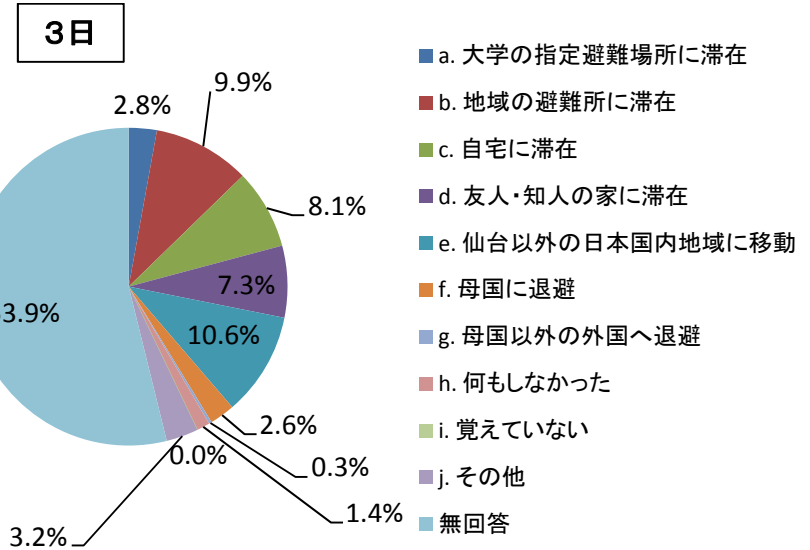
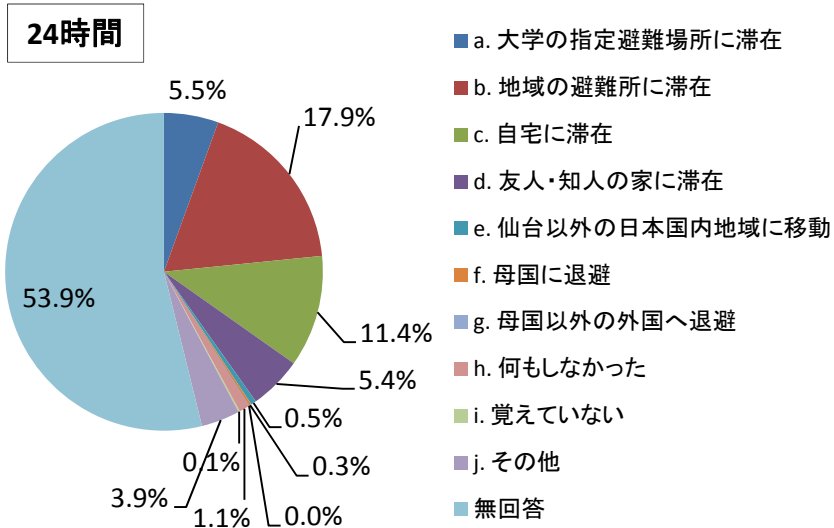


(東日本大震災の時東北大学に在籍している回答者対象)

地震発生時はどこにいましたか？

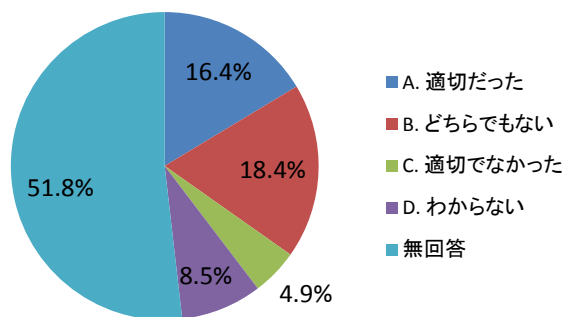


地震発生から「24時間」「3日」「7日」の期間にあなたがとった主な行動を、次の選択肢から1つずつ選び、それぞれ回答してください。

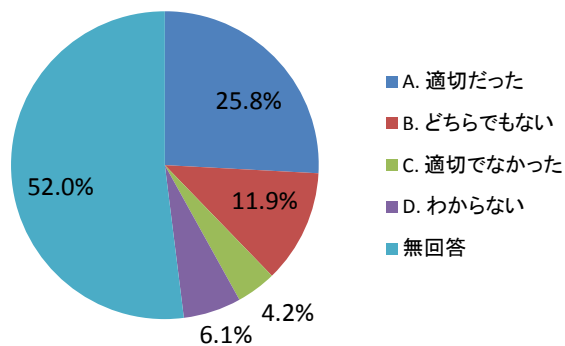


あなたは東北大学の震災への対応をどのように感じていますか。

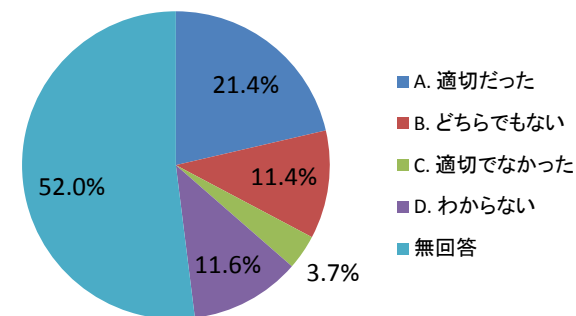
1. 震災前の地震に関する情報提供



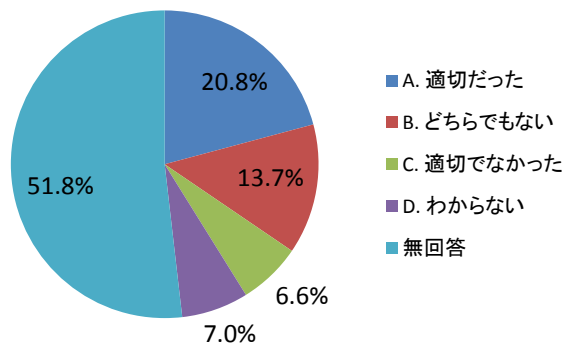
3. 震災直後の教職員による指示・案内



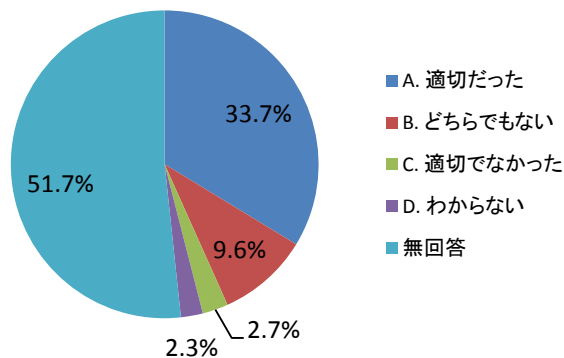
教務係など事務窓口の対応



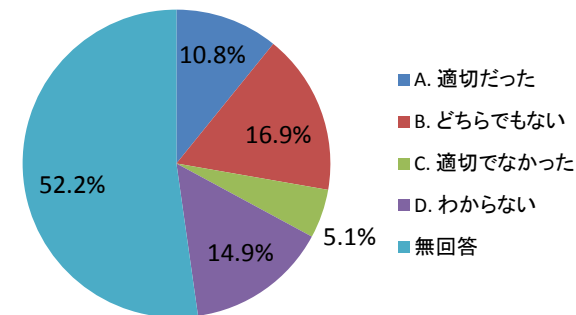
2. 学内の防災訓練



4. 震災後の安否確認連絡

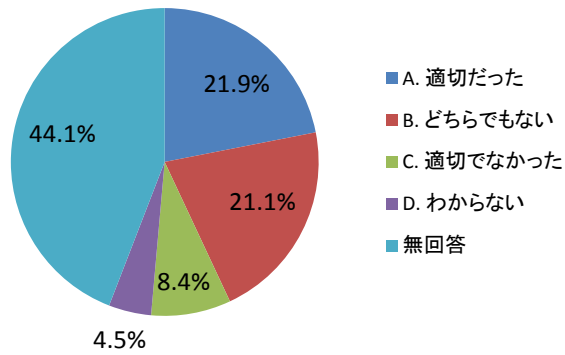


大学寮(国際交流会館、UHSなど)

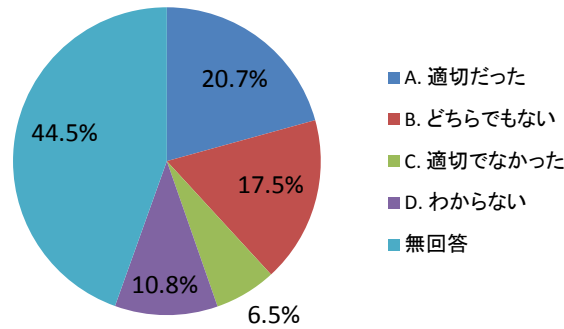


あなたは東北大学の震災への対応をどのように感じていますか。

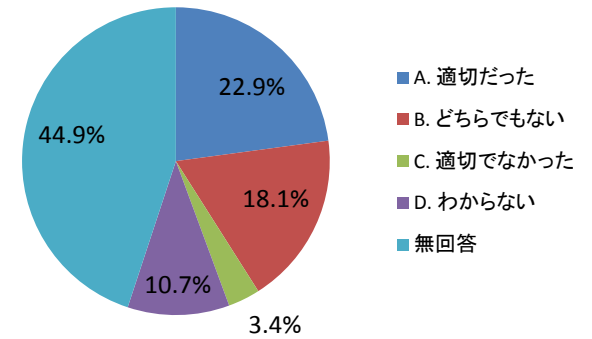
7. 震災後の地震・原発事故に関する情報提供



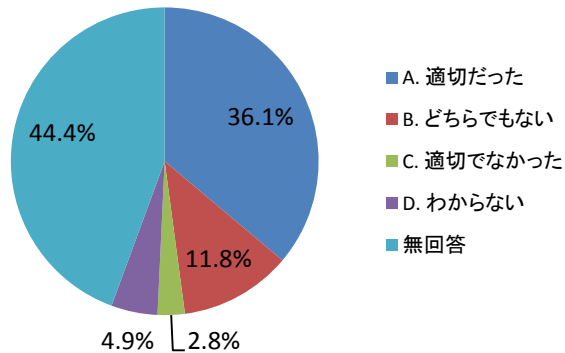
9. 経済支援に関する情報提供



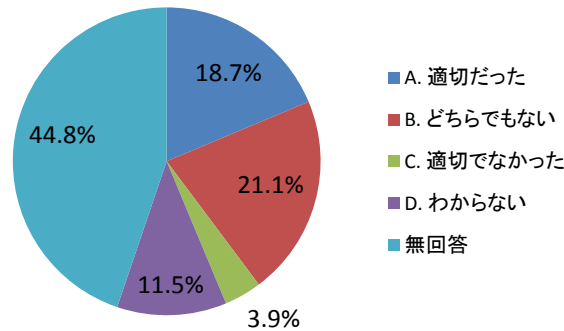
11. 被災地の復興支援への取組



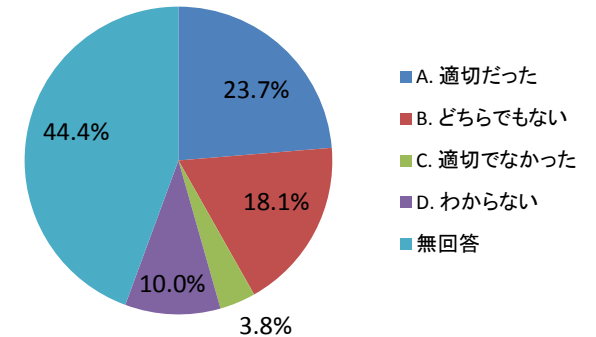
8. 震災後の大学再開に関する情報提供



10. ボランティア活動等に関する情報提供

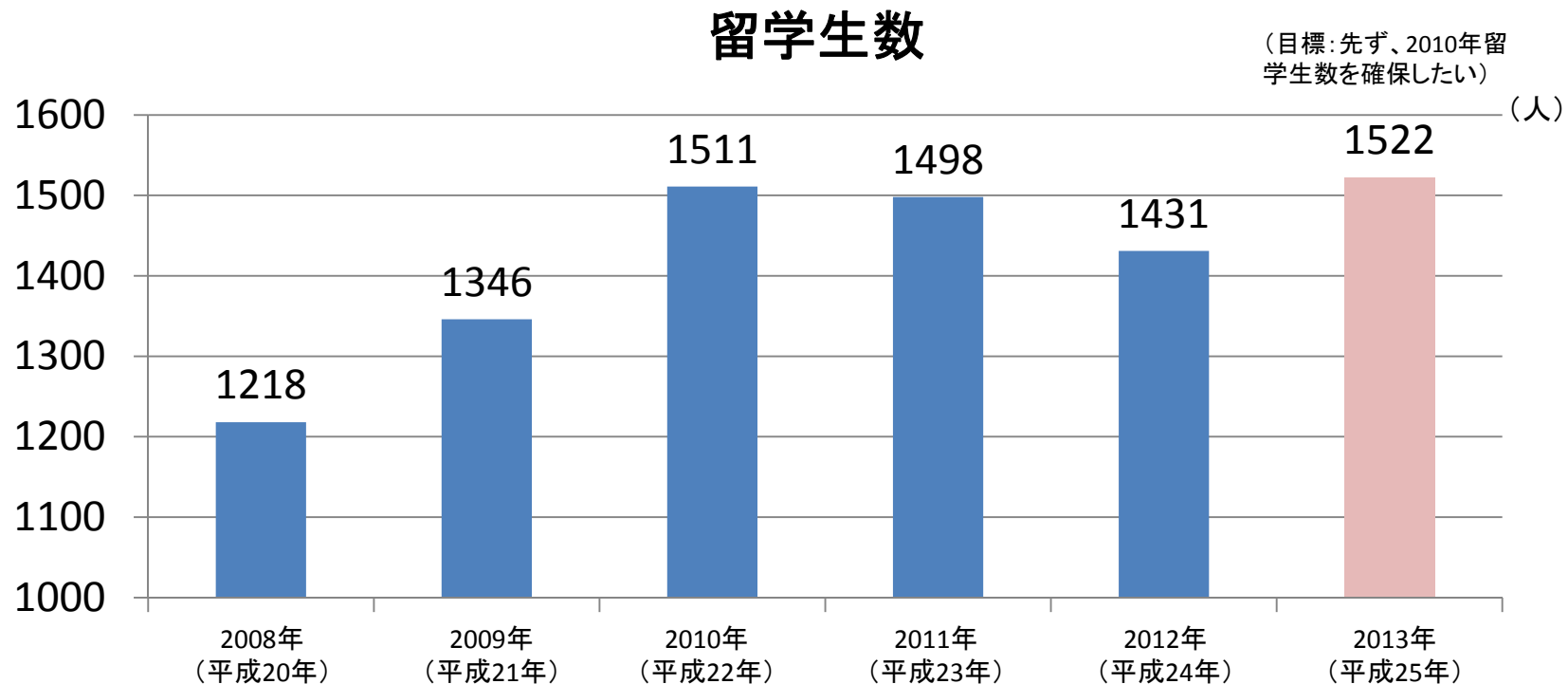


12. 東北大学の復旧に関する国内外への情報発信



③留学生の受入

- 留学生の受入は、平成20年度以降10%以上の順調な増加を示していたが、東日本大震災及び福島原発事故の影響により、震災以降減少傾向
このため、東北大学は地震被害の復旧に努め、現在は震災前と変わらない教育・研究環境を確保していること、原発事故による放射能の影響は無いことを広報
- 当初計画の2020年倍増の実現を目指す、当面、2010年の回復を目指す。



注) 留学生は、在留資格「留学」のみで計上

④海外大学との連携プログラムの新たな実施

○ G30スタート後、学生の国際交流の活性化を目指し、特に交流協定締結校との連携による学生交流事業を新たに実施
「主な交流協定校との連携プログラム」

プログラム	概要	受入実績	派遣実績
Cooperative Laboratory Study Program 【受入】(2009～) 【派遣】(2012～)	自然科学系大学院生が1学期又は1年間交換留学し、単位互換できるプログラム	66人	13人
Industrialised Countries Instrument Education Cooperation Program 【受入】(2009～2011) 【派遣】(2009～2011)	東北大学、京都大学、大阪大学と欧州側コンソーシアム(オランダ1、ドイツ2、スウェーデン1大学)の間で、自然科学系大学院生が6月程度留学し、単位互換できるプログラム	7人	11人
東北大学交換留学プログラム 【派遣】	学部及び大学院学生を半年又は1年間派遣するプログラム		168人
Study Abroad Program カリフォルニア大学・サンディエゴ校【派遣】(2009・2010) ・リバーサイド校【派遣】(2010～) シドニー大学【派遣】2008～	春期休業と夏季休業の期間中、カリフォルニア大学とシドニー大学に4～5週間、英語能力を高めるために派遣するプログラム		カリフォルニア大学 179人 シドニー大学 108人
Junior Year Program in English 【受入】	協定校の教育、理学、工学、農学の学部学生を1学期又は1年間受入れるプログラム	243人	
Direct Enrollment Education Program 【受入】	協定校の学部・大学院学生を1学期又は1年間受入れるプログラム。研究室に配属	211人	
Tohoku University International Program in Liberal Arts【受入】(2010～)	文科系の学部学生、大学院学生を1年間受入れ、単位を認定するプログラム	54人	

※ ()は、G30以降の新規

「主な交流協定校との連携プログラム」

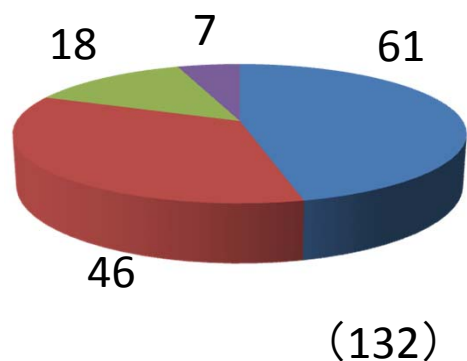
プログラム	概要	受入実績	派遣実績
Tohoku University Science Summer Program 【受入】 2007～	理工系学部学生を2週間受入れるサマープログラム	37人	
Tohoku University Arts and Letters Summer Program 【受入】(2011～)	文化系学部学生を2週間受入れるサマープログラム	27人	
Tohoku University Engineering Summer Program 【受入】 (2010～)	工学系修士課程学生を2週間受入れるサマープログラム	47人	

※ ()は、G30以降の新規

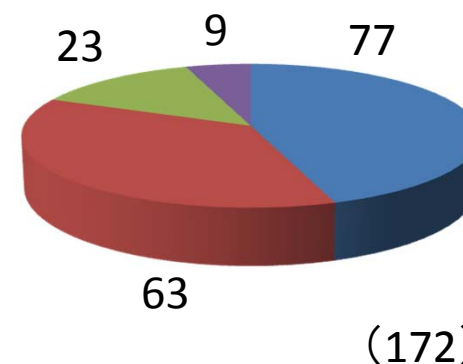
⑤大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

a. 協定校の締結数

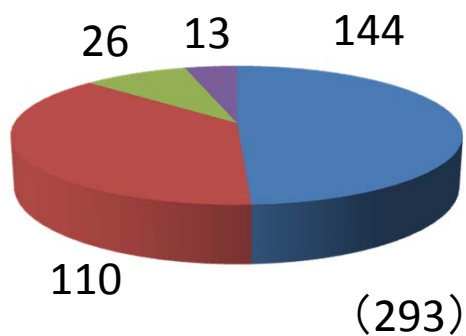
大学間



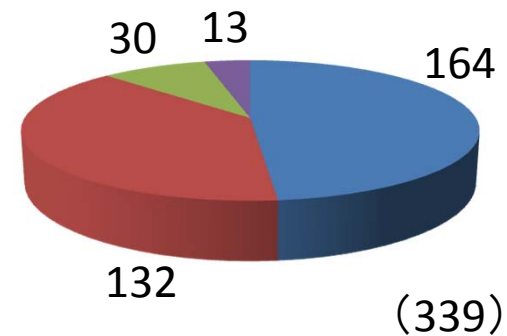
■ アジア
■ ヨーロッパ
■ 北アメリカ
■ その他



部局間



■ アジア
■ ヨーロッパ
■ 北アメリカ
■ その他

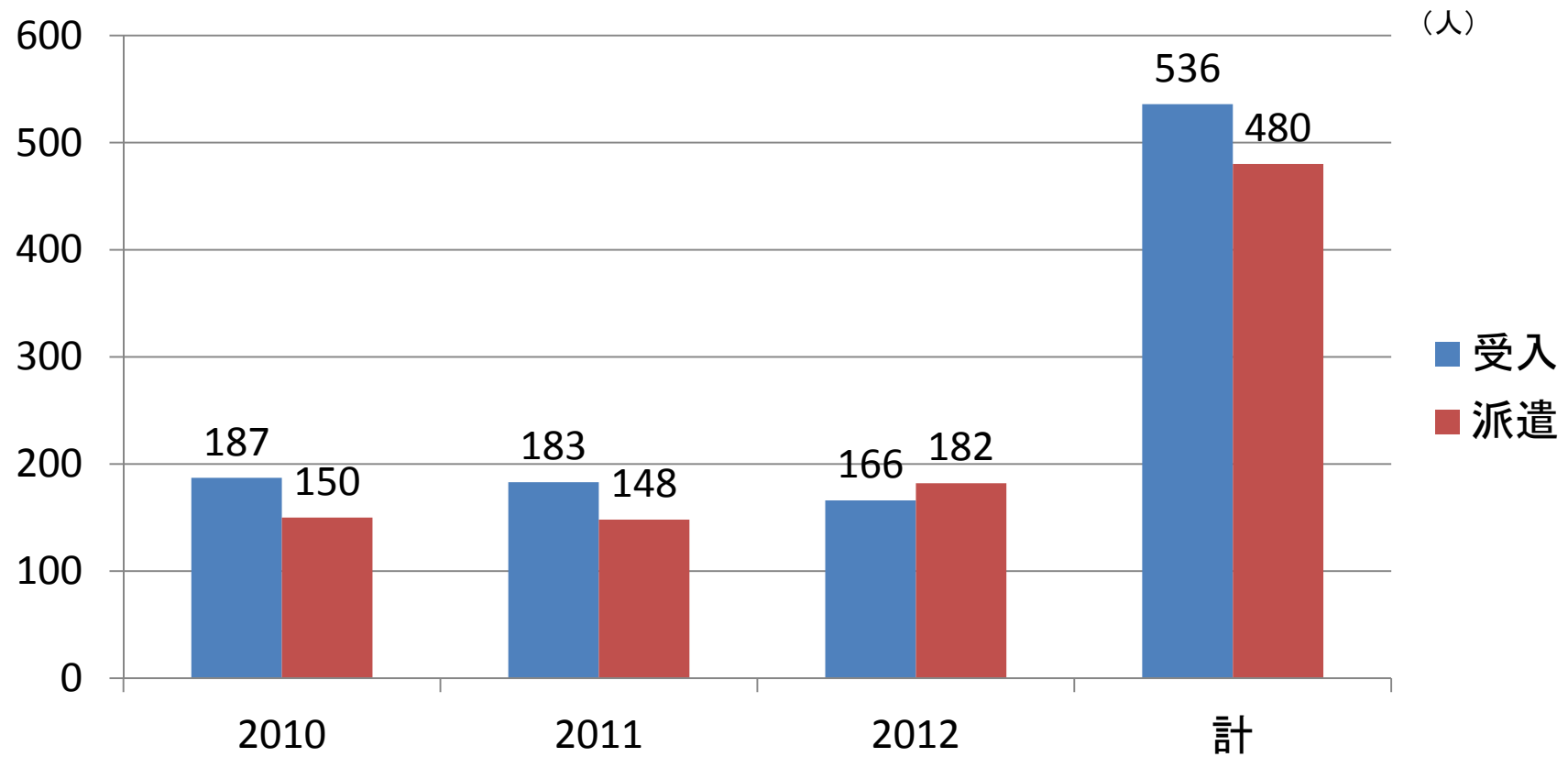


2008

2012

b. 協定等に基づく学生の受入・派遣

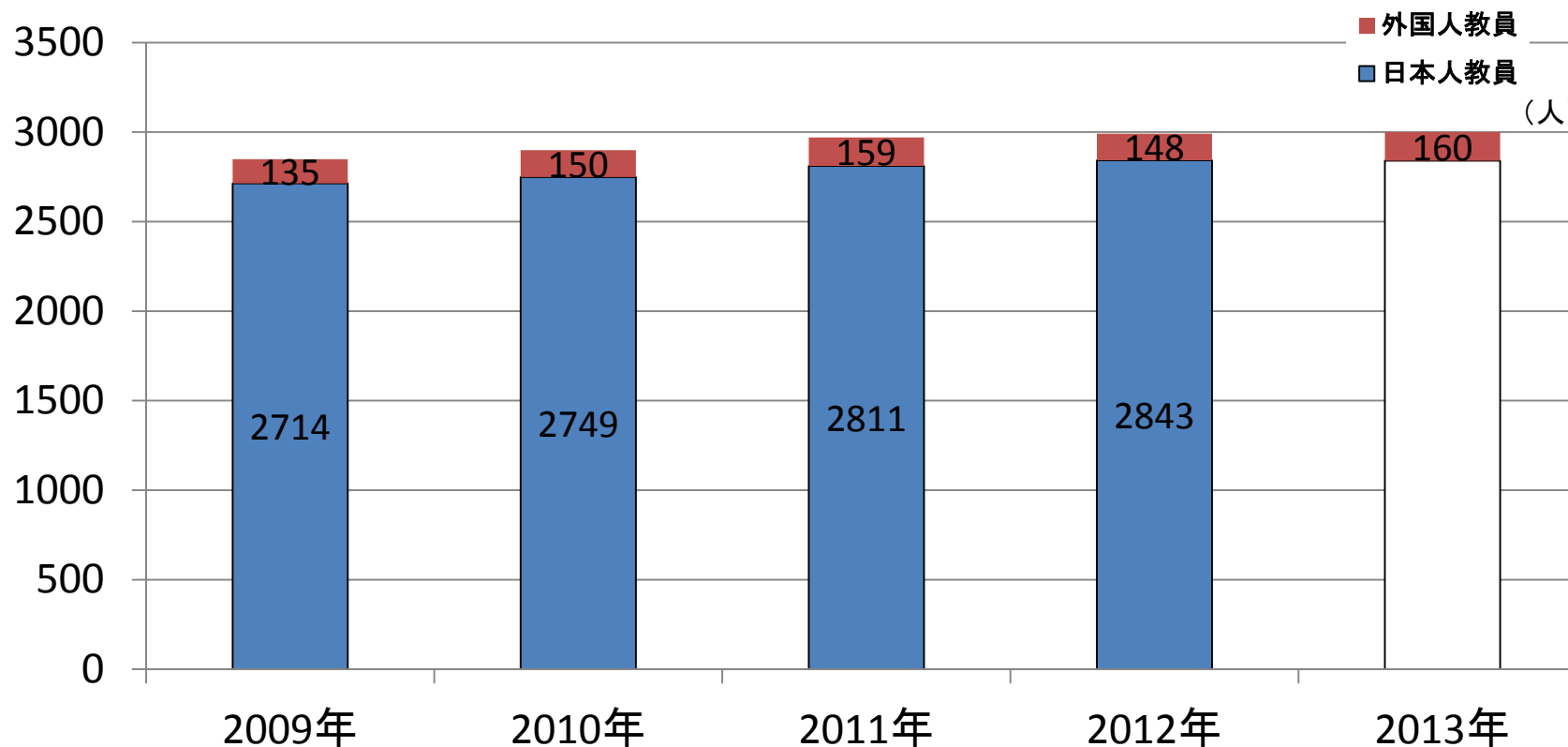
- 交流協定締結校の拡大に伴い、新たな学生交流プログラムによる学生交流が活発化
交流協定締結校は、2008年以降、大学間協定40校、部局間協定46校計86校増加
特に、COLABS(理系短プロ)による相互交流、IPLA(文系短プロ)の短期受入プログラム、SAP(カリフォルニア大学、シドニー大学での英語研修)等のショートプログラムが活発化



⑥教育体制の充実

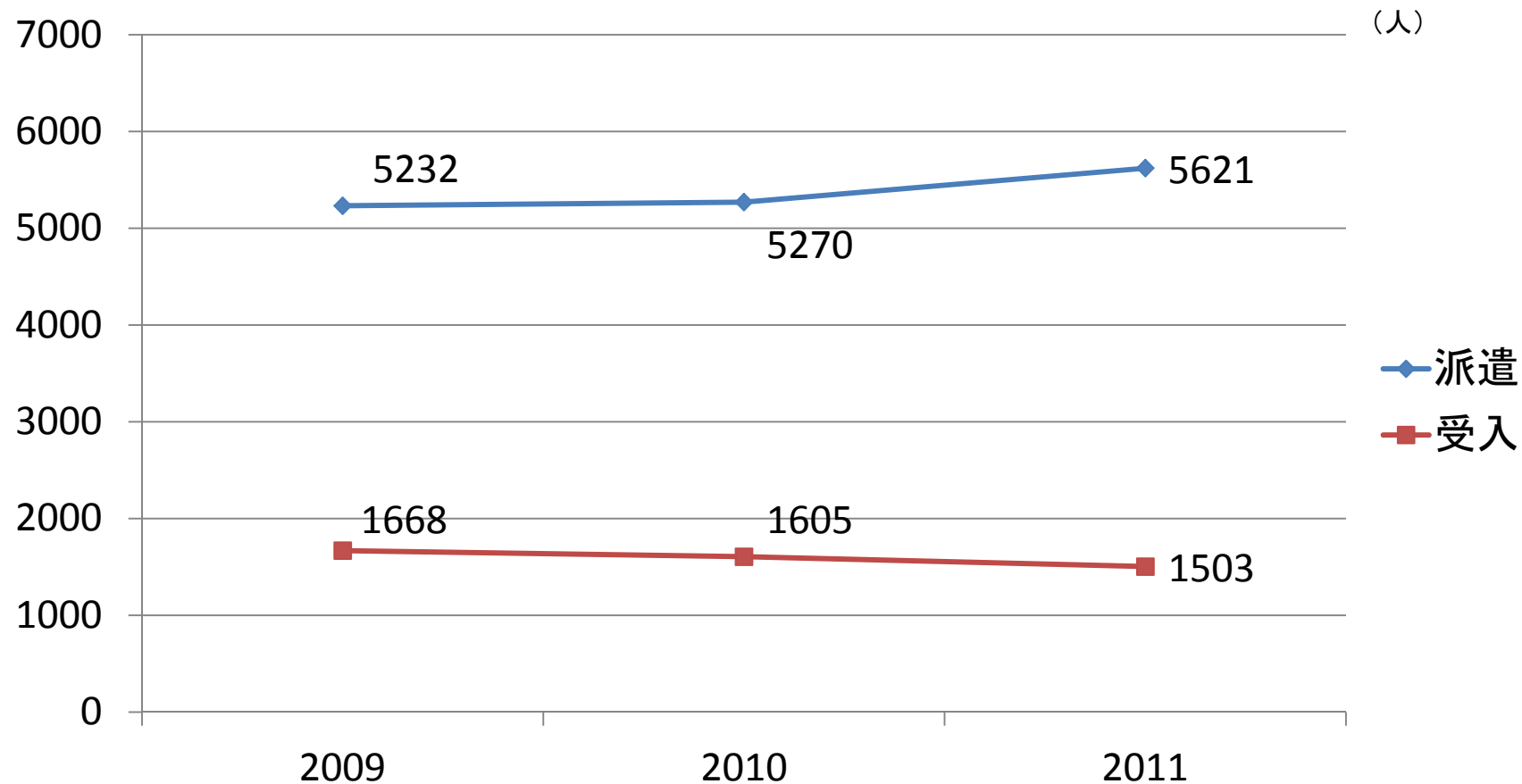
a. 外国人教員の雇用

- 英語による学位取得コースの拡大、世界的な競争環境の中での研究展開等々により、常勤外国人教員の雇用は拡大。日本人教員も、特に近年は、英語論文の作成、英語発表が常態化しつつあり、海外での研究も、若手段階で実績を積むことが常態化
- G30プログラムにより採択した英語教育のための外国人教員については、教育国際化の継続方針(国際的に通用する人材の育成方針に基づく英語コースの継続)と新たな展開(グローバル人材育成推進事業への採択による学生の海外派遣の加速的推進の実現計画)に基づき、再構築



b. 日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

- 研究センター大学として、高度かつ先端的研究を世界的レベルで実践しており、海外での学会、研究活動は活発。同時に、海外研究者の滞在研究、訪問研究も活発



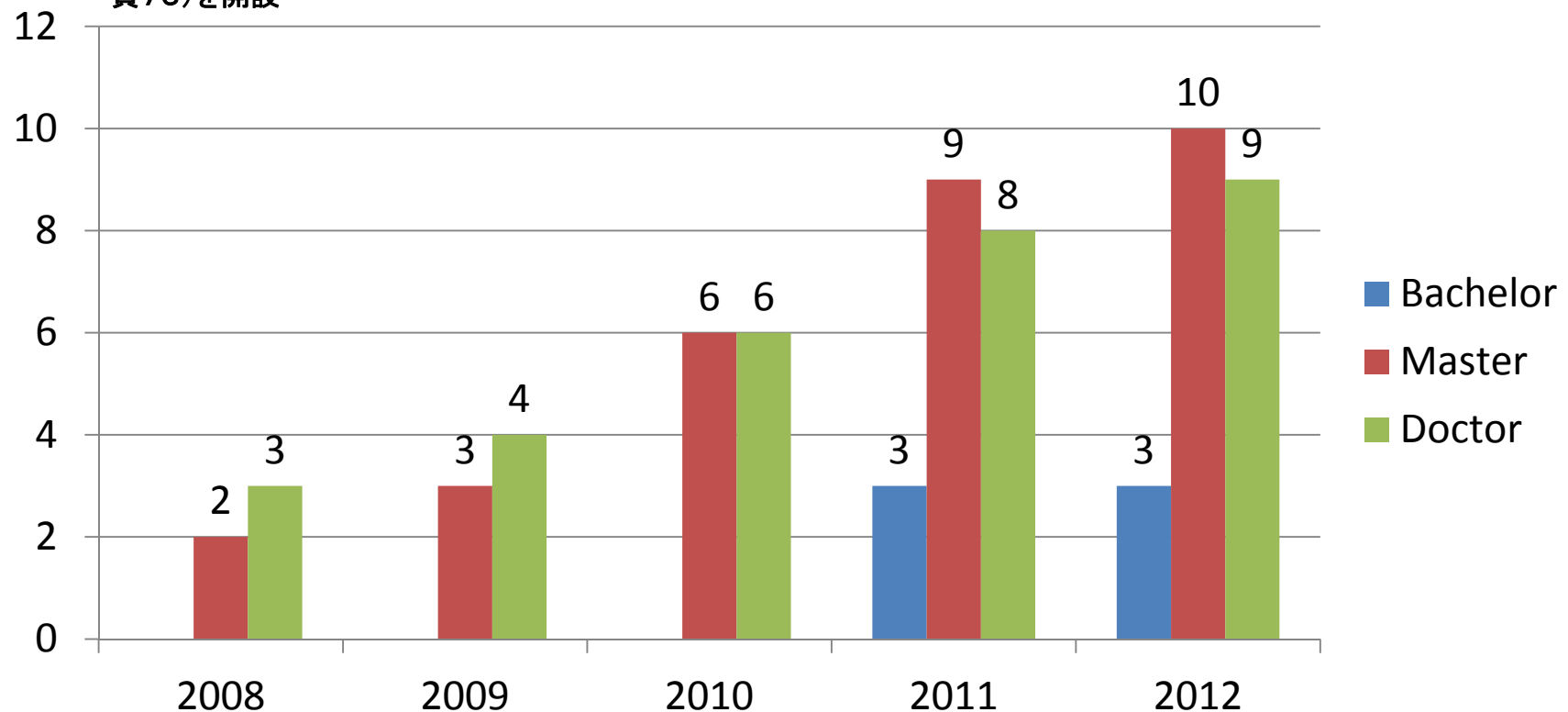
【研究者交流の状況】

2. 取組状況

①英語による授業のみで学位が取得できるコース

a. 英語コースの開設

- ・大学院においては、G30開始前の2001年に1コース、2004年に1コース、2005年に1コースを開設済
- ・学士課程(国際学士コース)については、2011年10月から理学部、工学部、農学部においてコースを開設
- ・大学院については、2009年10月に1コース(修士・博士コース)、2010年10月に3コース(修士1コース、修士・博士2コース)2011年4月に2コース(修士1コース、修士・博士1コース)、2011年10月に2コース(修士1コース、博士1コース)、2012年10月に2コース(修士1コース、博士1コース)を開設。合わせて13コース(修士定員 88、博士定員75)を開設



b. 学生確保の状況

(人)

コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	入学者数	在籍者数
Advanced Molecular Chemistry	理学部	2011/10	B	10	7	11
International Mechanical and Aerospace Engineering	工学部	2011/10	B	10	10	18
Applied Marine Biology	農学部	2011/10	B	10	5	10
International Doctoral Program in Engineering, Information Sciences and Environmental Studies	工学・情報・環境	2001	D	25	14	41
International Graduate Program for Advanced Science	理学研究科	2004	M	20	10	18
			D	20	14	37
International Post-Graduate Program in Human Security	医・農・国文・環境	2005	M	8	13	6
			D	3	2	15
International Program for Environmental Sustainability Science	環境科学研究科	2009/10	M	7	0	1
			D	5	3	4
International Mechanical and Aerospace Engineering Course-Graduate	工学研究科	2010/10	M	5	7	15
			D	5	3	9
International Materials Science and Engineering	工学研究科	2010/10	M	10	2	8
International Program in Economics and Management	経済学研究科	2010/10	M	8	11	19
			D	4	8	15

b. 学生確保の状況

(人)

コース名	学部名	開設時期	学位	募集者数	入学者数	在籍者数
Information Technology and Science Course	情報科学研究科	2011/04	M	15	1	3
International Course of Life Sciences	生命科学研究科	2011/04	M	5	3	8
			D	3	7	15
Interface Oral Health Science Course	歯学研究科	2011/10	D	5	1	1
International Graduate Program in Language Sciences	国際文化研究科	2011/10	M	5	2	2
Basic Medicine Course	医学系研究科	2012/10	M	5	0	0
Network Medicine Course	医学系研究科	2012/10	D	5	0	0

* 入学者数: 2012年度入学者
 在籍者数: 2012.10.01現在

c. 質の高い教育の提供と教育の質の向上

○質の高い教育を提供するため、次のような方法を導入

- ・ 国際学士コース学生のカリキュラムは、全学教育部分と専門教育部分で構成するが、作成に当たっては、G30実施委員会の下に全学教育担当と学部教育担当の合同委員会を置き、合同委員会で精査し、最終的には、全学の学務審議会の中のG30全学教育委員会を経て決定
- ・ 学生の成績評価は、全学的な評価基準を学務審議会で定め、教員及び学生に明示

○教育の質の向上のため、次のような事項を実施

- ・ G30により採用した外国人教員は国際教育院に配置し、毎週1回、相互の教育情報提供、教育方法改善の協議ができるよう、G30実施委員会幹部を交えたミーティングを実施

○外国人教員による日本人教員の授業スキルの向上

- ・ 教員FDは、東北大学高等教育開発推進センターの大学教育支援センターが中心となって、「英語で授業を」「実践的英語力養成セミナー」「新任教員英語集中海外派遣」等を実施

②留学生受入のための環境整備

a. 留学生に対する支援(修学、生活、経済、就職等)

「修学関係」

- ・ 国際学士コース留学生については、1年次の段階から、指導教員制による修学支援を実施
- ・ 修学支援、教育支援が必要な場合は、TA、RAを配置
- ・ SLA(スチューデント ラーニング アドバイザー)システムを設け、常に教育相談できる体制の整備

「生活・経済関係」

- ・ 特に初期の段階で安心して学べる環境を確保するため、ユニバーシティハウス(混住寮)への入居を配慮
- ・ 成績優秀者には、外国人特別奨学生(総長特別奨学生)制度による奨学金(月額:授業料相当額)を給付
- ・ 一般学生と同様に授業料免除制度が活用可能

「就職」

- ・ キャリア支援室による就職情報の提供
- ・ 留学生のためのジョブフェアの実施

「その他」

- ・ 留学生と日本人学生の交流の機会を設ける。(混住寮での企画、ボランティア活動、サークル等)
- ・ 学生相談所、保健管理センターにおける英語を含む多言語での対応の実施

b. 日本語・日本文化の学習機会の提供

- 国際学士コースの学生は、要卒124単位中10単位は日本語・日本文化の学習が必修
- 実験科目、体育における日本人学生との共修授業の実施による日本語学習機会の提供
- 史跡見学・行事参加等による日本文化学習機会の提供
- 国際交流センターの教室をボランティアによる日本語・日本文化の学習に開放

c. 海外拠点の設置と留学生の受入促進

- 2カ国に3つの海外事務所と、7カ国に9つの海外リエゾンオフィスを持ち、学术交流の拠点、教育交流のための基地として活用。海外事務所はロシアと中国に持ち、日本語又は英語が可能な現地職員を雇用
- G30構想における重点国として、ロシア、中国、インドネシアを掲げている。
 - 中国は復旦大学の協力により上海事務所を立ち上げ、留学生受入れの協力体制は確立。現在更に清華大学との協力を協議中
 - インドネシアはNGOの協力により留学生の受入れが拡大
 - ロシアについては、現在は高校までの教育制度の違いにより、受入れが進んでいない。これを克服する方法をロシアの高等教育機関と協議。また、近い将来12年の教育制度に変更されるのに備え、受入れのための情報を収集

d. 海外大学共同利用事務所

- 2010年9月に、モスクワ大学内に「ロシア海外大学共同利用事務所」を開設。英語で対応可能な現地職員を配置
これまで、日露大学間交流に関する意見交換、日露大学合同説明会、日露間の教育・研究の在り方調査、日露文系フォーラム、大学院入試面接等、様々に利用

【利用した機関】

- 2010年： 文部科学省、ロシア日本大使館、科学技術振興機構、東京大学、東京農工大学、民間企業開発部、東北大学
- 2011年： 文部科学省、日本センター、国際科学技術センター、日本学生支援機構、モスクワ大学、北海道大学、筑波大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、九州大学、広島大学、慶應大学、明治大学、同志社大学、大阪市立大学、民間企業開発部、東北大学その他
- 2012年： 東京大学、名古屋大学、岩手大学、筑波大学、東京外国語大学、東北大学

③拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化

- 学術協定校の増加、トップダウンによる学術協定の締結。スタディアブロードプログラムやIPLA等の新規プログラム開発による学生交流の活発化
- 留学生と日本人学生の混住環境、共修環境の整備。キャンパスの国際化が進展
- 英語授業の共修の拡大

b. 大学間ネットワークの形成(国内大学との連携)

- グローバル30採択校、北日本エリアネットワーク(東北地区47大学)、G30パイロット・ネットワーク(筑波大学、名古屋大学、東北大学)、学都仙台コンソーシアム(宮城県17大学)等多様なネットワークの活用。国際シンポジウムの周知など

参考:今年度G30開催シンポジウム

9月「留学生と日本人がともに学ぶ場を作るーグローバル人材を育成する授業とはー」

12月「東日本大震災から学ぶ国際連携ー留学生支援ネットワークと大学の危機管理」

- 日本語のホームページの新設によるグローバル教育の取組の周知

c. 産業界との連携

- 留学生対象の就職フェアやグローバル企業見学ツアー等を実施。今後日本人学生も対象にグローバル人材のキャリア支援を産業界との連携で強化

d. 事務体制の国際化

- 一定の外国語スタンダード(TOEIC800点等)を満たす事務職員は、定員989人中2.6%26人
その他に、国際交流・留学生セクション、外国人研究者を多数抱える部局等において、英語能力の高いものを有期雇用職員として採用
- 採用時に、外国人教員の協力を得て、英語の試験・面接を実施。採用後、職員語学研修として英語研修・中国語研修を実施
- グローバル教育や国際化に関する教職員研修を開催
- G30事業として学内教務関係の文書を英語化。学内で閲覧可能 → 今後学外への公表予定
- eラーニングを教職員にも開放

e. 評価の実施と改善

□中間評価結果における指摘事項等への対応状況

- 中間評価においては、これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断されるとしているが、学生の海外派遣について、新規プログラムの開発、情報提供等の対応に工夫が望まれるとの指摘を受けた。
この点、改善に取り組み「1. 本事業の成果④海外大学との連携プログラムの新たな実施」に示したとおり、学生の海外派遣数は増加

□外部有識者等による評価の実施と改善

- 国際研究大学として「世界リーディング・ユニバーシティ」を実現するため、財政、教育、研究、社会貢献等の全般について、欧州大学協会(EUA)の機関別評価プログラムを受審(2009~2010)
- G30プログラム外部評価を実施(2010)。指摘事項は、①ホームページへのアクセスの改善 ②日本人留学生の海外派遣の増加③コンピュータ室の老朽対策

いずれも、関係部署との連携により改善したが、更なる改善は必要

3. 経費の使用状況

①予算額の推移と使用実績

【2009～2012の補助金(事業推進費、人件費、旅費、施設・備品費)と大学負担額】

(千円)

	補助費					総長裁量	合計	備考
	設備・備品費	旅費	人件費	事業推進費	計	大学負担額		
H21年度	9,066	95,878	69,896	106,260	281,100	131,399	412,400	
H22年度	0	60,800	132,318	30,172	223,290	141,220	364,510	
H23年度	0	61,175	157,243	33,482	251,900	171,895	423,795	
H24年度	0	52,340	167,314	37,753	257,407	150,473	407,880	

②内部監査等の実施

- 毎年度実施される公認会計士監査及び監事監査において、全学的な監査状況を踏まえ、必要によって留学生課グローバル30実地監査が実施される仕組み

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

①今後の課題と展望

- 英語コースのカリキュラムのPDCAサイクルによる見直し
 - (例) 日本と外国の高校の教育の違いによる初年度教育での問題点
- 留学生コースを日本人を含むグローバル教育に寄与するものに発展させる。
- グローバル教育を推進するための組織改革が必要

②事業終了後(2014～)の見通し

□英語コースの拡充

- 留学生受入促進の観点のみならず、日本人を含むグローバル教育の促進の観点からも英語コースの充実が重要
- 学務審議会において、英語コースの実施方法等について検討
- 外国人教員の充実とともに日本人教員の積極的参画を促す。日本人教員へのグローバル教育に関する研修の拡充

□留学生の受入促進

- これまでの留学生受入れ、留学フェア、高校訪問等の実績を分析し、効率的なリクルート戦略の構築を目指す。
- 入試方法の変更の検討

□補助金の終了に伴う代替財源の確保

- 学内措置による財源確保を検討中